

歴史を活かしたまちづくりシンポジウム ―旧住友銀行熊本支店社屋の復活劇―

日時 : 2019年5月18日 15時～17時
会場 : カリーノ魚屋町ビル（旧住友銀行熊本支店社屋）
当日の天気 : 雨 最高気温 24.0℃ 平均風速 3.2m
来場者数 : 80名
主催 : NPO 法人熊本まちなみトラスト
後援 : 五福校区自治協議会／一新校区自治協議会
くまもと新町古町復興プロジェクト
日本建築学会九州支部歴史意匠委員会
被災文化遺産所有者等連絡協議会
熊本市現代美術館



司会・進行 竹田宏司 副理事長

本日は、足元の悪い中、シンポジウムにご来場いただいたき誠にありがとうございました。買い取られたカリーノさんのご厚意でこの会場を使わせてもらっていることに感謝申し上げます。本シンポジウムでは、「カリーノ旧住友銀行熊本支店社屋」という呼び方をしておりますが、カリーノでは「魚屋町ビル」と呼称しているということをお断りしておきます。まずは、かけつけて下さった小野副知事に一言ご挨拶頂戴したいと思います。

挨拶 小野泰輔 熊本県副知事

熊本地震で被災した城下町の歴史的建造物を一件でも多く救えるようにと、行政としても基金を活用した補助制度を設けて微力ながら支援してまいりました。

私は住友銀行の口座も持っていましたので、熊本に越してきた時にこの建物で手続きをしたことを思い出します。カリーノさんが買い取られて、熊本のどんな顔になっていくのか楽しみに思っているところです。熊本では何度も大きな地震が起きていたことも熊本地震後の永青文庫の歴史研究などからわかってきています。何年後になるかわかりませんが、次に大きな地震が起きたとしてもしっかりとまちなみを残していくということも含めて、今、直面している課題に対応しながら、次の世代のために考え行動しなければならないこともあるように思います。このシンポジウムが、未来に向けても考える場になればよいと思います。最後まで参加させていただきますので、よろしくお願いします。

司会（竹田）

突然の指名にもかかわらず、ご挨拶いただきありがとうございます。私のほうからシンポジウムについて一言、説明申し上げます。

なんで熊本の三井住友銀行はこんなところにあるんや、という声を聞いたことがあります。1934年の建設当時、この向かいには富士銀行があり、現在、PS オランジュリとなっている旧第一銀行熊本支店にかけて熊本のウォール街ともいうべき金融街が形成されていました。

2017年8月、ここに最後まで銀行として残っていた三井住友銀行熊本支店の移転が報じられました。危機感を持った私たち熊本まちなみトラストでは部会を設置し、地域の皆さんとともに三井住友銀行熊本支店社屋保存活用連絡協議会を立ち上げ、三井住友銀行に対する保存・活用のはたらきかけ、新聞への投稿、まちづくりに活かすためのフォーラムを開催するなどの活動を行ってきました。

2018年1月、支店機能が移転して空き店舗となり、三井住友銀行のはからいで地域住民に長く親しまれたこの建物を使い続ける買い取り手を捜していただきました。三井住友銀行、カーリーノグループに敬意を表します。このシンポジウムでは、この近代化遺産の価値を紐解くとともに、再生のビジョンを語り合いたいと思います。それではまず、基調講演として熊本大学名誉教授・伊藤重剛理事長に「住友銀行熊本支店の魅力」と題してお話しいただきます。



基調講演 住友銀行熊本支店の建築の魅力 伊藤重剛 理事長

1年前には、ここでこういうシンポジウムが開けることは想像できませんでした。私は住友銀行の口座を持っていませんでしたので、空き店舗になってから初めて中を見ましたが、まず感激するのはアーチの連なりです。建築的価値という堅い感じがするので、「魅力」と題して話を進めてまいりたいと思います。

概要としては、私の弟子にあたります熊本大学工学部土木建築学科の吉武先生が調査し、論文として発表している内容・図面をもとに説明したいと思います。

旧住友銀行熊本支店社屋は、昭和9年竣工、設計は長谷部・竹腰建築事務所（現日建設計）、施工大倉組（現大成建設）。外壁はコンクリートの壁面でありながら、単調にならないように、石造に見せるように目地も入れてあります。このフロアもかつてはガラスの天井で、その上にガラスブロックの屋根があり、2重のガラスで採光されていた明るい空間だったようです。できれば、元の姿に戻して欲しいと建築の人間は考えるように思います。ファザードの円柱の装飾はコリント式からアレンジされており、疑似コリント式と言ってもいいし、あえて名前は付けなくてもよいのかもしれませんが。内部のアーチの連なり、天井の高い広い空間は、一目見たときにゴシックの教会建築のような印象を受けました。住友銀行大阪支店のエントランスはイオニア式の円柱の装飾で規模も大きく、旧第一銀行熊本支店と同様のアーチの連なりはあえて言うならばルネサンス式ということかもしれません。

現存する戦前銀行建築として数少ない貴重な例で、古町地区のシンボリックな建物としても十分だと言えます。

市民や観光客の目にも触れる場所に位置していて、景観上も重要な建物であり、これからの歴史を活かしたまちづくり、観光振興にも重要な拠点となりうるのではないのでしょうか？

司会（竹田）

質問等は、この後の意見交換会でお願いしたいと思います。事例紹介としてまずは、大分銀行赤レンガ館の事例を、大分銀行地域創造部三代吉彦副部長よりお話し頂きます。

事例報告 大分銀行赤レンガ館の場合 三代吉彦 大分銀行地域創造部副部長

地域創造部で地方創生関係の仕事を5，6年くらいしています。旧本店の赤レンガ館に地域商社とショップを入れるということでリノベーションしておりますが、是非その話を聞かせて欲しいということでしたのでお伺いしました。

大分銀行赤レンガ館には Oita Made という会社とショップ、タウトナコーヒーのカフェが入店しています。竣工が大正2年で、辰野金吾の設計。東京駅が大正3年なので1年お兄さんに当たる建築です。平成5年にもリニューアルのための改修工事がありました。旧二十三銀行本店として竣工し、戦災で焼失したあと改築し、昭和24年から現在の本店が完成する昭和41年まで大分銀行本店として利用されました。その後、支店が入ったりしていましたが、平成26年、私が現在、副館長も務めています大分駅南側の「宗麟館」にローンプラザ支店が移転しました。宗麟館は、ガラス張り5階建ての現代的なビルですが外壁に赤レンガを使用しておりまして、水戸岡鋭治さんに1階、2階をプロデュースしていただきました。

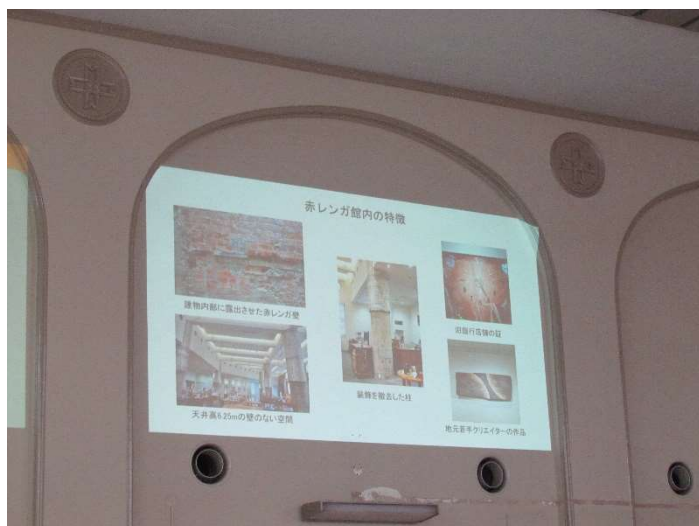
リノベーションの基本方針として、銀行の利益だけではなく地域社会への貢献を目指すことがあります。地域のクリエイター、若い人が集まり何か新しいものを生み出していった欲しいという思いから、クリエイティブ・プラットフォーム機能を持たせるとともに、エリアの賑わいづくりに貢献すること、県内地域にお金が回る仕組みとすることを目指しました。一方で、辰野金吾氏の設計意図も出来るだけ感じられる場所となるよう心掛けました。

店内は、大分市中心市街地のシンボルとしてふさわしい雰囲気になるよう、壁を作らず空間を広く見せくつろぎ易い空間とすること、オリジナルの赤レンガ壁面を見せること、装飾を極力排除すること、什器等も県内産にこだわり、県内の若いクリエイター達が集まりやすい場とすることを基本方針としました。

基本構想設計に当たっては、赤レンガの三菱一号美術館や東京ステーションギャラリー、尾道 U2、台湾の第四信用合作社、華山1914創意園區などの事例を参考にしています。

赤レンガ館では、アップルサイクルイベントやOPAMの新見館長の対談会、N響の演奏会、「進撃の巨人展」とコラボしたアート展示など、OPAM、市美術館とも声をかけ合って、いろいろな取組を行っているところです。Oita Made 株式会社ですが、地域ブランド商品の企画開発・販売、旅行業、不動産業を行っており、県内の優れた一次産品・観光資源等の素材にクリエイティブな付加価値を付して商品化し販売、利益を関係者に還元することで地域経済の活性化を図り、生産者、地域、自社の“三方よし”を実現することを設立の目的としています。250以上の商品を扱っており、全ての商品に大分に関係する原材料などが使用され、特に紹介させて頂きたい5万4千円の万年筆もよく売れているところです。

私も学生時代は建築士を目指していた時期がありました。何かの参考になればと思います。ご清聴ありがとうございました。



司会（竹田）

続きまして、「続く 100 年のために」という幕を掲げて熊本地震の復旧工事を進めている PS オランジュリの(株) PS 平山武久社長からお話しいただきたいと思います。

事例報告 旧第一銀行熊本支店の場合 平山武久 (株) PS 社長

この素晴らしい建物の中、震災でほとんど傷ついていない建物でこのようなシンポジウムができることがいいなあとと思っています。すぐそこなのに、なんであちはあんなに傷ついたのでしょうか…。尾道 U2 では空調を担当しましたので、大分銀行赤レンガ館の参考にして頂いたというのが嬉しいです。

PS オランジュリは今年で 100 周年になりますが、震災があり、昨年ようやく補修・耐震補強工事に着工することができました。震災時、壁に亀裂ができ、天井も落ちてきました。

今回の工事で、掘り出し物がありました。大正 12 年 3 月から昭和 12 年 11 月までの旧第一銀行熊本支店の帳簿で、実物を持ってきました。パッと開いて出てきた昭和 3 年は、PS の創業者の私の父が生まれた年です。今年で 90 歳になります。

私たちの会社は、空調関係のラジエーターを作るメーカーなので、どういう屋内環境を作るかというところから仕事に入ります。一般的なエアコンと違い、ラジエーターに冷水や温水を循環させることで自然に近い快適な環境を作るということをやっている会社です。

空調は外部環境によって違いますので、気候に合わせて屋内の環境をどう作るか探求するため、北は北海道からここ熊本まで、8ヶ所の情報センターを設置しています。熊本は湿度が高く、熱いので強い関心を持っています。PS オランジュリの役割は、施主・設計者が構想を練る空間、製品情報がある場、健康・環境・品質・文化を語り合う場として、九州中の方が集まる場にしたいと考えています。

大正時代に建てられた建物ですが、屋根にはソーラーパネルがあり、その電気を使って、熊本の地下水を熱源に循環させて、ゆっくりと環境を作るということをしています。

PS オランジュリは、熊本の気候風土の中で大正時代の建築物が、現代令和の室内気候ニーズに合うように再生し、今年の年末に完工予定です。様々なプロジェクトに、こう構想段階から温度と湿度の専門メーカーとして共にお役に立てるよう進化を続けてまいります。



司会（竹田）

続きまして、この建物を取得されたカーリーノグループの馬場英治社長に新所有者としての思いをお聞きしたいと思います。

新所有者の思い 馬場英治 カーリーノグループ代表

我々は三井住友銀行からどうですかと言われて、最初はピンと来なかったのですが、三井住友銀行にお世話になっており、熊本に恩返しができればという思いで買い取りました。

カーリーノグループは、北は山口県から南は鹿児島県まで80以上の商業施設を所有し、運営している不動産会社です。カーリーノ下通・宮崎・鹿児島、郊外型の大型ショッピングセンター、スーパーマーケット、ディスカウントストアなど雑多な物件を持って運営しています。PM（プロパティマネジメント）事業、BM（ビルメンテナンス）事業、一部実業会社で13社。カーリーノクリエイティブは、販売業・広告代理業で、今日は副知事もいらっしゃっていますが、くまモンスクエアの指定管理も行っている会社です。

カーリーノは、平成13年、寿屋の民事再生のために設立された会社で、寿屋の場合は10年間打切型の民事再生でした。寿屋は社員1万人全員解雇、130店舗を全店閉鎖したので、カーリーノがまず行ったのは社員の再雇用で、寿屋グループ1万人の8割の雇用を維持して120店舗を再開店できました。

カーリーノ下通に蔦屋書店を入れるまでには、3回失敗を繰り返しました。最初に下通店を作ったときに、鶴屋・パルコ・ダイエー下通店との競争に勝てず1年持ちませんでした。1階をどう作るのがカギだと認識して一度全館閉鎖し、蔦屋書店を核店舗に1から出直したのです。下通店は築48年の建造物ですが、平成28年3月31日に耐震工事を終えていたので、熊本地震に耐え、本部があるお店なので良かったなと思っています。

カーリーノ宮崎では、蔦屋書店とコールセンターが入居しています。商業施設と事務所の融合型の事例です。下通店は蔦屋書店が入ることでまちが若返り、三年坂のお店も入れ変わりました。この経験を通して、私たちは建物を維持するためには、まちづくりをする必要があると実感しました。カーリーノ宮崎では、宮崎市のDOまんなかモール委員会に参加しています。

三井住友銀行との関わりの話をしますと、民事再生手続で三井住友から融資の打診があり半年もかからない間にうん十億を用意していただき、我々は生き延べることができました。そういう経緯で三井住友銀行は命の恩人ですので、この建物をもらってくれと言われて承諾したのですが、そのお陰で所有することができて良かったなと思っています。

グループをあげてこの建物をどう守っていこうかということですが、まだ白紙です。耐震化は必要だと考えています。まちづくりに興味がありますが、宮崎での経験で大変だとは感じています。今日いらっしゃった方の話を聞いていると、この建物を崩さずやるのが大事なことで、今日来て改めて思いました。

わが社はトップダウンではなくボトムアップの会社ですので、現場担当者の意見を聞きながら運営方法等を考えていきたいと思っています。ご協力の程、よろしくお願いします。



司会（竹田）

カーリーノがなぜこの建物を買われたのか、みんな疑問に思っていたことでしたので、その疑問にも答えてくださってありがとうございました。このあとは、ご登壇いただいた皆さんにもう一度前に出てきていただいて、意見交換に入ります。まずは、これだけは話しておきたいということがあればお話し頂きたいと思いますが？

平山武久

「まちづくり」というキーワードが結構、出てきました。P S オランジュリとして活用し始めてから、敷居が高い、中に入り辛いという話も耳にします。入りやすい空間にしていく必要があると思いました。

三代吉彦

「まちづくり」は業務でやっていますが、当事者がどれだけ情熱をもって一緒に取り組んでいけるか、どういう人が集まって新しいことができるかという仕組み作りができるかということが大事だと思います。

伊藤重剛

P S さんから「入りにくい」という話をお聞きしましたが、外観で格式の高い建物は難しいのかと思います。五高記念館の館長も 10 年やりましたが、学生でも入りにくい、怖いという声さえも聞いていました。コンサートやイベントなどの活動することによって親しみを持ってもらえるようになるのではないのでしょうか？やり方次第で入りやすさは解決出来ると思います。上乃裏通りも昔は住宅地で今のような状況はありませんでしたが、壱ノ倉庫の出店でまちが様変わりしていきました。P S さんが旧第一銀行社屋を買い取り、カーリーノさんがやはり銀行社屋を買い取り、新しい街になっていくことを期待していますし、そのための協力も惜しみません。

司会（竹田）

何だか、先に結論が出てしまったような感じになってしまいましたが、どういう風に話をもっていけばというところですが、馬場社長の方からはいかがでしょうか？

馬場英治

カーリーノ下通のことを引き合いに出しましたが、現在、蔦屋書店がまちなかの待ち合わせ場所のトップにあるような状況になっています。人が集まる場になれば、コールセンターでも何でも良かったと思います。人が集まるようになれば、満室になり、空きがないかと聞かれるような状況になりました。そういうものなんですね。入り

口は自分の施設をどう守るかというところで始めたことが、先のまちづくりに繋がるのではないかと思います。カリーノ宮崎も時間をかけて、満室にしましたが、郊外型ショッピングセンターのイオンの出店もあり採めました。中心市街地をシャッター通りにはいけないというのが私の持論です。宮崎の蔦屋書店の出店に際しては、イオンの書籍だけは潰してくれと話をしていましたが、結局、まち全体でイオンと戦うような形になり、DOまんなかモール委員会が立ち上がりました。下通もモリコーネの前にモリコーネテラスを設けて、イベントを開催していますが、ああいうものを根気よくしつこくやっていかないと振り向いてもらえないのかなと思います。熊本の場合はどうにか勝っているんで、中心市街地の広がりを雰囲気の良いこの地区まで波及させたいというのが狙いでもあります。

平山武久

我々は近所なので、同時テロではなく同時開催で、シンポジウムなりイベントができればいいなと思いますが？

馬場英治

そう思います。

平山武久

P Sが今年の暮れに完成し、オープニングイベントも企画しているのですが、もしその時にこの空間が使えるなら一緒にやりませんか？

馬場英治

是非、お願いします。（会場、大拍手）

司会（竹田）

ありがとうございます。期待が持てるようなお話でしたが、地域としての希望があれば会場からお聞きしたいと思います。



平野俊晴 五福校区自治会連合会の平野です。

平成3年に五福ふれあいまちづくりの会を始めて、20数年になる、地元でまちづくりに取り組んでいる団体です。今日は、こういうシンポジウムがあるということで要望書を作ってきました。一つは、五福小、藤園中学校卒業のカムイ龍虎という大衆演劇「劇団錦」の現在20歳の子が米屋町3丁目のマンション育ちで後援会会長を

私が勤めています。熊本地震後、熊本公演ができる場所がなくなり困っているので、芝居小屋をここに作れないかと思っています。大正 12 年に市電を敷設する際に、川端町にあった末廣座が閉館、その後残っていた東雲劇場も閉鎖しました。熊本の演劇文化を継承する場所として活用できないかと思っています。それともう一つ、五福小学校の器楽部が今年から部活動が制限されたために地域バンドに移行し、「五福風流街ウインズ」として先週 11 日から新たにスタートをきりました。今までは体育館が使えましたが、森都心プラザのホールの予約をとろうとしてもなかなかとれません。小さなコンサートホールとして使えないかともっています。

司会（竹田）

まちの特徴を活かすというのも大切だと思います。コンサートや演劇であれば、早川倉庫も十分、活用されています。



田中洋子

今日は、貴重なご意見、たくさんの発表をありがとうございました。私は、この 3 月まで壺川小学校の教員をしていましたが、早期退職して社会教育で頑張っていきたいと考えています。熊本駅と交通センターをどう繋ぐのかというのが、熊本の一番の問題じゃないかと思うのですが、この場所は中間地点でいい場所にあると思いました。熊本には文化財や若手の芸術家など、素晴らしいものはたくさんあるのですが、全てが点で、まだ面になっていないのが問題ではないかと一人で思っています。先ほど、連携してやりましょうとおしゃったのがすごいと思いました。まちおこしは、協力し合い、繋がっていないとできないと思います。ここで何をするかはカーリーノさんが考えていくことですが、ここを中心として文化を発信する場であることが大事ではないかと思っています。学校教育の分野では、国が持続可能な人材育成のため ESD ということに取り組んでいます。ここにいて、まちづくりを考えているのは大人ばかりですが、子どもたちと一緒に考えることで子どもたちがまちのことを自分ごととして考えられるようになるようにと思います。熊本から成人して熊本を離れる子もいると思いますが、何らかの形で地域に返ってくるのではないかと思います。たくさん伝えたいことはありますが、いくつかのポイントで私の思っていることを話しました。とにかく、皆さんが連携してやっていくことがいいなと思っています。ありがとうございました。

司会（竹田）

熊本まちなみトラストの定款でも、子どもたちとの活動は想定したものになっていますので、おっしゃることがやっていけばいいなと思っています。今のお話で、点でしかないというご指摘もありましたが、熊本市で「歴史まちづくり」について取り組んでいることにつきまして、どうでしょうか？

伊藤重剛

現在、熊本市は歴史的風致維持向上計画策定に向けて取り組んでいます。市の担当の方が来ておられるので、村上さんに話をさせていただいてはいかがでしょうか。

村上亜紀

熊本市都市景観整備課の村上と申します。歴史的風致というのがわかりにくいのですが、価値の高い歴史的建造物とその周囲に広がる活動が一体となったものを歴史的風致と呼び、そういうものを大事にしましょうという計画を立てているところです。熊本県内では、山鹿市、湯前町が認定されており、熊本県内で3番目の認定を目指しているところです。



伊藤重剛

大分銀行さんからは、仕組み作りが大事ということでしたが？

三代吉彦

金融関係、建築関係など各業界にキーマンがいるので、そういう人をつかまえてつながりながらどういうことをやるかを考えることが大事だと思います。そういう機会、場をできるだけ多く作って、一つの方向に意見をまとめていきながらやっていくと、その過程に巻き込まれた人たちは当事者として自分ゴトになるのでその後も気になるようになります。そういう雰囲気はどうやって作っていくのかということを意識してやっていかれると良いように思います。

境正子

私はこの地域に6・26水害の頃から記憶がある近くで会社を営んでいる者です。これまであまりお金に繋がらないような話が多く出てきましたが、カリーノさんは民間企業でするので利益につながるようなものを考えないといけないと思います。投資している以上、急いで何かをしなければいけないのではないかと思いますがいかがですか？

馬場英治

その通りですが、無駄なものを作るわけにもいきません。継続しようと思えば費用対効果は合わせないといけないので、大きく儲ける必要はないと思いますが、多くの人に見てもらえるようにどう作るかというのをきちんと考えなければいけないと思います。とは言っても、3年4年と遊ばせておくわけにもいきませんので、できるだ

け早く再開したいとは思っています。皆さんの力を借りながらやる物件ではないかと考えています。

司会（竹田）

いい質問、いいお答えありがとうございました。



上村元三

近くで居酒屋を営んでおり、新町・古町復興プロジェクト、和服を着ての街案内などをやっています上村と申します。私のお店で、若い子たちとここで何ができるのかと考えたときに、大口のスポンサーを集めて映像を流しながらカフェができないか考えたことがありました。借り賃などが明示されていれば依頼等も来るのではないかと思います。もう一つは、P S、ここ、早川倉庫で同時開催し、地域を回遊するようなイベントができれば大行事ができます。この付近の若い活きのいい子たちと繋がって頂ければと思っています。最後に、大分銀行赤レンガ館では飲食用途で使用するために気を使っているようなことはありますか？

三代吉彦

宗麟館は火が使えませんが、赤レンガ館では必ずしも火が使えないことはありません。基本的にIHにして火を使わないようにしています。

司会（竹田）

時間が過ぎ加減になっています。そろそろ締めていきたいと思いますが、副知事から最後にコメントいただけませんかでしょうか？

小野泰輔

今日はいい事例の話が聞けて良かったです。また、地元の方が多く関心を持たれているのも良かったですし、事業者から所有者を思いやる発言もあって良かったなと思います。私も考えましたが、令和版八千代座というのでもいいのかなと思いました。柱のところを2階席にして、昼間はレンタルオフィス、夜はフリースペース、1階を物販、飲食スペースで、プロレスや相撲、ダンスなど何でもできると思います。馬場社長もおっしゃっていましたが、若い人たちが集まるということをテーマにしてやると街が元気になるように思います。若者が減っていると言うものの、楽しいところに集まるエネルギーはありますので、魅力ある求心力あることを楽しく考えていければと思いました。私も今のアイデアを企画書にまとめて馬場社長に持っていきます。みんなで考えるきっかけになるシンポジウムだったと思いました。今日は非常に楽しく過ごさせていただいてありがとうございました。

平山武久

私は、熊本の人間ではありませんので出しゃばらないようにしていますが、熊本駅から歩いて中心市街地まで行くルートがあるといいように思います。歩くことをやり始めると日常生活の小さなお店、小さな活動から連鎖反応が生まれることを期待しています。

司会（竹田）

時間が定刻を過ぎてしまいました。最後に馬場社長からとも思いましたが、今後も対話の場が設けられればと思っています。最後に、伊藤理事長から総括をよろしくお願いします。

伊藤重剛

この空間で初めてイベントを開けたということが僕にとって歓びだし、携わってくださった皆さんにとってもそうだと思います。P S ところ、早川倉庫と一緒にイベントが出来れば、古町はすごいことになり、変わっていきけるような気がしました。子どもたちも高齢者もみんなが生き生きとしたまちになればいいなと思いました。今日は、本当にありがとうございました。

司会（竹田）

最後にもう一度拍手をお願いします。（大拍手）

今日の会場はカーリーノさんにお貸しいただき、椅子、テーブルは早川倉庫、補助椅子・音響はP S オランジュリからお借りしました。運搬協力は、黒瀬商店と宮本建設、トイレは西消防署にもお世話になりました。

最後に拍手で終わりたいと思います。どうもありがとうございました。